



インタビュー

ハリー・キム

RNA Analytics
グループ CEO



ご自身の経歴と、RNA Analytics創業について教えてください。



私は保険業界でアクチュアリーとして33年間働いております。1989年に韓国国内の生命保険会社でキャリアをスタートさせ、その後、Milliman and Watson Wyattでシニアアクチュアリーコンサルタントおよびマネージングディレクターとして7年間勤務しました。この初期の段階で、数理実務とリスク管理に関する一連のスキルと知識を習得することができました。

14年前まで、リスク管理と数理管理は一般的に別々に運用されていましたが、2008年のサブプライム住宅ローン危機の後、保険会社はリスク管理と数理管理を統合した新しい管理システムを導入する必要がありました。この新しく開発された管理システムには、複雑なITインフラストラクチャとパフォーマンスが必要でした。そして、韓国は長年にわたってそのITの進歩で知られています。

RNA Analyticsは2009年に設立され、2017年にIBMからリスク管理およびアクチュアリーソリューション(AFM)ビジネスを買収し、幅広い要件に対応する完全なソリューションを完成させました。RNA Analyticsは現在、英国、スペイン、韓国、日本、香港、台湾、シンガポール、タイにオフィスを構える世界的な保険数理およびリスク管理会社です。

RNA Analyticsにおけるご自身の役割について教えてください。



RNA Analyticsにおける私の役割は、大きく3つのカテゴリーに分けることができます。

まず、営業活動に関しては、各地域担当者とコミュニケーションをとり、地域ごとの営業状況や事業戦略をマネジメントしています。彼らが目標を達成できるようにサポートを提供し、またRNA Analyticsを米国などの地域に拡大するサポートもしています。ビジネスを向上させるための目標と方向性を設定するためチームと取り組んでいます。

次に、RNA Analyticsの未来となるDX(デジタルトランスフォーメーション)に向けてのクラウドソリューションを開発し、研究開発に投資してそのプロセスに備えることです。RNA Analyticsが急速に変化するビジネス環境に対応できるように、私たちはIT開発に焦点を当てた正しい道を進んでいます。これは、この成長するデジタル時代において非常に重要です。

3つ目は、RNA Analytics Groupの全体的な財務成長、人材管理、投資、および資金調達について重要な決定を下す責任です。

保険会社に統合されたサービスとソリューションを提供するためにRNA Analyticsを設立しました。



RNA Analyticsにおけるご自身のキャリアのハイライトは何ですか？



私のキャリアのハイライトは、この競争の激しい市場でIBMからアクチュアリーソリューションビジネスユニットを買収し、IFRS17、ソルベンシーII、クラウドなどの新しい市場トレンドの要件を満たすソリューションを改善および開発し、クライアントに優れた違いを提供することで。保険市場が進化し続ける中、クライアントを支援するソリューションを開発することは本当にやりがいがあります。

この数年間で業界はどのように変化しましたか？



これまで各国で適用されてきた監督規制や会計制度は、21世紀のグローバル統合モデルとして実施されてきました。規制の変更と業界全体のデジタルトランスフォーメーションの組み合わせは、数年前と比べても保険業界の状況がまったく異なることを意味します。

主要な業界の変化には、2016年にEUで導入されたリスクベースの資本制度であるソルベンシーIIが含まれます。これは、保険会社の全体的なリスクを定量化し、対応する資本を保持する必要があることを意味します。これは資本規制であり、日本と韓国ではJ-ICSとK-ICSの名前で実施されます。

同様に、EUを中心とした国際会計基準の中で保険契約に適用されるIFRS 17が施行されようとしており、米国もそれに相当する「LDTI(Long-Duration Targeted Improvements)」と呼ばれる財務会計基準の準備を進めています。過去の金融環境とは異なり、新しい会計基準には、複雑な金融工学の計算手法、大量のデータ、ガバナンスに対する厳しい要件が含まれています。新しい会計基準が導入される中、各国の保険会社は、これらの新しい要件を満たすために変更を急いでいます。

RNA Analyticsは、現在の業界の課題に対応するために戦略をどのように変更しましたか？



顧客のデータ需要が高まるにつれて、これを可能な限り効率的に管理する必要も高まります。OCIを使用してOracleに直接ロードするなど、膨大な量のデータをデータベースに直接ロードする機能により、顧客のデジタル需要に対応しながら、指数関数的に成長することができました。このようなテクノロジーにより、大規模なシナリオ分析を必要とするIFRS 17の要件を満たす高度な戦略を実装できるようになりました。

地域固有の課題として、多数の契約を持つアジアの保険会社は、システムのコストと運用時間が劇的に増加しました。我々は時間とコストを削減できるソリューションを提供することができ、APACなどの新しい市場と将来の市場変化への迅速な対応、および既存のソリューションで構築されたIFRS 17案件のさらなる獲得のために、クラウドベースのシステムをサポートするための開発プロセスをすでに準備しています。

規制の変更と業界全体のデジタルトランスフォーメーションの組み合わせは、数年前と比べても保険業界の状況がまったく異なることを意味します。



IFRS 17とLDTIへの移行が保留中ですが、この変更について確信が持てない顧客にアドバイスはありますか？



米国におけるIFRS 17（国際財務報告基準 17）および米国における長期保険契約（LDTI）の導入は、国際的に統一された会計基準を通じて会計情報の有用性と比較可能性を高めるという点で望ましい結果です。

しかし、IFRS 17の実施が遅れていることから、IFRS 17の基準に従って運用システムを確立し、市場評価を反映した会計基準を適用することが難しいため、企業がこれらの変更を順守するのはそれほど簡単ではないことが示されています。

資本市場が開かれ、資本の流れが頻繁になるにつれて、各国間の異なる会計基準には、統一された公正価値または市場価値による合理的な会計認識の適用に対する一般的なニーズがあります。

インシュアテックの未来は？



インシュアテックの導入により、これまでの運用方法、商品開発、顧客管理を一新し、より高度なサービスの提供が可能になりました。インシュアテックの出現により、保険業界のビジネスモデルを変革することができます。

現在、特に保険業界では、膨大な量の技術開発とイノベーションが起こっています。私たちが住んでいる世界がデジタル化するにつれて、必要なリソースも増加します。保険の相談業務はロボットに任せられるようになり、ブロックチェーンを使った安全な決済システムも登場しています。

RNA Analyticsでは、お客様に最高のサービスを提供するために、常に技術の開発と革新を行っています。保険部門は近代化を続けており、従来のプロセスはこれらの技術的進歩に合わせて変更されています。

この業界で働き始める方へにアドバイスできることを1つ挙げてください。



保険業界に足を踏み入れようとしている人は誰でも、創造的であり続け、新鮮で先駆的なアイデアを提示するようアドバイスします。業界が発展し近代化するにつれて、保険業界でのキャリアを始めようとしている次世代にとって、業界がさらに進化するのを支援することが重要です。エキサイティングで革新的な業界を探しているなら、インシュアテックは間違いなくあなたのための場所です。

現在、特に保険業界では、膨大な量の技術開発とイノベーションが起こっています。私たちが住んでいる世界がデジタル化するにつれて、必要なリソースも増加します。

